

時間のバランスを取れるようにすることが不可欠でしょう。

- ・ 従業員がそれぞれのライフステージに応じて、最大限の実力を発揮しうる制度を作っていくべきだと思います。そういった面でワーク・ライフ・バランスの支援をしていくことも重要だと思っています。(人事担当者)

④ CSR（企業の社会的責任）の遂行

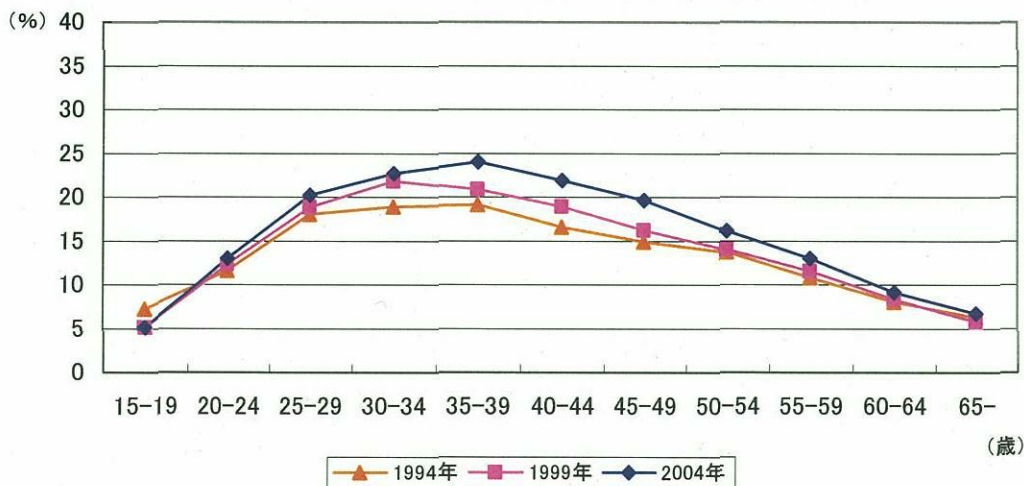
女性の活用やワーク・ライフ・バランスの推進をCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）として位置付け、従業員の多様性を尊重し、安心して快適に働ける職場づくりに取り組む企業が増加しています。

企業は本来の企業活動だけではなく、社会的公正や環境問題への取組などの側面も含めて評価されるようになってきており、投資家、顧客、従業員等のステークホルダー（利害関係者）からの信頼を得るためにも、こうした取組が求められます。

- ・ ある程度の規模の会社が、きちんとビジネスをして、社会の中で認知されようとするれば、人に優しい、誰でも無理なく働けるような働き方を考えていかなければなりません。かつてのように、働けるだけ働いて家庭のことは顧みないでいいという考え方は、社会的にも認められなくなっているのではないかと思います。(人事担当者)

子育て世代男性の4人に1人は、労働時間が週60時間以上となっている。

年齢階級別週60時間以上就業の雇用者の割合(男性)



注) 休業者を除く従業者総数に占める割合

資料出所：厚生労働省「平成17年版労働経済の分析」